



新規心不全治療薬に期待

名大とラクオリア創薬

産学協同研究センター

谷直樹 ラクオリア創薬社長 インタビュー

今年創立八〇周年、創基一四八周年を迎えた名古屋大学。人文系も含めた総合大学だが、ノーベル賞受賞者を輩出し、科学的分野では世界的な研究拠点を標榜し、たゆまぬ歴史を刻み続けている。最新の大きなニュースの一つは、「産学連携」の新しい在り方として昨年四月に大学構内に生まれた「ラクオリア創薬産学協同研究センター」であろう。アカデミア発の医薬候補化合物を創出、人類の健康への貢献を目指す。その母体であるラクオリア創薬株式会社の谷直樹社長と渡邊修造常務にセンター設立の意義、同社の今後の展望などについて聞いた。（聞き手は、中部財界フォーラム社編集顧問 中西英夫）

——まずはラクオリア創薬産学協同研究センターの発足を振り返ってください。

谷 ラクオリア創薬は、ファイザーから独立して二〇〇八年に設立しました。名大における新しい産学協同研究体制のパイオニアとして一四年から名大に参画し、昨年、名大の産学センター第一号として、「ラクオリア創薬産学協同



渡邊修造常務

研究センター」が発足しました。センター長に環境医学研究所の澤田誠教授が就任され、運営委員会が統一的に対応しています。名大の基礎研究の創薬シーズ（種）をもとに、同センターで新薬の研究開発を行い、さらにそのための戦略立案や管理も行うというイメージです。

——名大との連携事業は、一五年には経産省からの補助金を受けられることになったんですね。

谷 一六年に一九〇〇万円、一七年に二二〇〇万円の補助金を受領しました。

——様々な研究の中で、特に心不全治療薬が注目されています。差し支えのない範囲で研究経過と、どういってお薬かわかりやすくご説明してください。

渡邊 当社が名大に参画した際、竹藤幹人助教から紹介いただいたアイデアがもとになります。難しい説明は省きますが、一五年から共同研究に着手し、先生は一七年に論文発表され大きな反響がありました。研究は順調に進展しており、心肥大という心不全の症状に対して動物実験で有効に働くことや、心肥大に関係するバイオマーカーを抑えることが確認されています。

谷 心不全の薬は、七〇年代から製薬会社はずっと探してきましたがなかなか難しかったのです。その中で竹藤先生が出されたコンセプトが大変有望であるとわかりました。心不全の全く新しい新薬として期待できるのではないかと思っています。

——厚労省の調査では、入院患者では第二位、外来患者数では第三位といえます。ずばり、市場に出してくる目途はいかがですか。

渡邊 今年の終わりから来年にかけて研究段階を完了し、可能であれば大手の製薬会社とライセンス契約して開発を進めたいと考えています。

——ところで昨年十一月に、名大、岐阜薬科大学、岐阜大学三大学との交流シンポジウムが開催されました。その意義と成果について教えてください。

谷 名大医薬系三部局（医学系研究所、環境医学研究所、創薬

名古屋市中村区に本社を置く、創薬系のベンチャー企業。米国の製薬大手ファイザーから二〇〇八年に独立して誕生した。一四年に愛知県武豊町から移転。資本金は二二億三七五八万円。薬のアイデアから始まり

ラクオリア創薬株式会社

化合物の決定、臨床試験を経て少数の患者で開発化合物の有効性と安全性を確認するまでを「創薬」と定義。創薬によってできた開発化合物の実施権を製薬会社等に許諾（ライセンス）アウト＝導出と

科学研究科）から発展して、中部圏の大きなシンポジウムとなりました。多くの中堅・若手研究者が参加し活発な討議がなされ、医学・創薬研究への関心の高さが浮き彫りになり大成功でした。当社も今後参画を続けていきます。

いう）することによる収益の獲得を事業展開の基本としている。これまで、ペットの痛みを緩和する新薬や逆流性食道炎の新薬の海外でのライセンスアウトに成功している。



RaQualia

innovators for life

Raは太陽、Qualiaは感覚の質感を表す。「社員的情熱や輝き、暖かさ、研ぎ澄まされた感覚を活かして、価値ある新薬を創る」という意味を込めた。